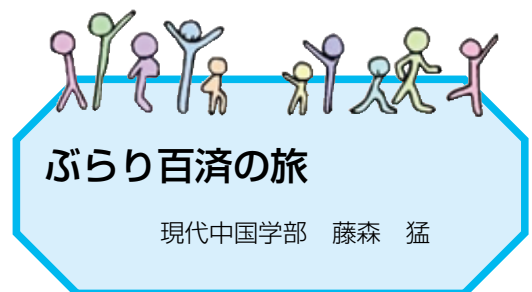


まったドバイのビジネス拠点としての存在感は、石油に頼らない貿易の国へと戦略を転換してきたことにあります。ドバイモールやモール・オブ・ジ・エミレーツのような巨大ショッピングセンターでは世界のブランド品のウィンドウ・ショッピングが楽しめますし、世界の食材（最近では非イスラム教徒用の豚肉ハムなども）を購入できます。レストラン街では各国の料理が楽しめます。旅の疲れで、宿で日本食を食べたくなったら BENTOYA（[www.bentoyadelivery.com](http://www.bentoyadelivery.com)）に電話で出前を注文するのもよいかも。107 種類の料理から選べます。ドバイのクリーク（運河）のまわりには古き良き町並みが残っています。そこにはドバイ 3 大スーク（souk）、つまり、オールド・スーク、スパイス・スーク、ゴールド・スークがあります。活気あふれる市場です。オールド・スークでは絹織物などの衣料品が所狭しとばかりに様々な品物が並べられています。スパイス・スークは文字通り、香辛料の市場です。ゴールド・スークで一生もののジュエリーを買うのもよいでしょう。5～6 万円ほどで買えるものもありますよ。頑張って値切りの交渉をしてみたいかがでしょうか。

ドバイのインフラ発展を象徴するものとして、828m の世界一高いバージュ・カリファ（ブルジュ・ハリファ）があり、さらに高い 1,000m を超えるドバイ・クリーク・タワーを建設中です。ドバイの象徴、7 つ星の「ブルジュ アル アラブ」はペルシャ湾に浮かぶホテルです。そこの 27 階にある展望レストランではアフタヌーンティーを楽しむことができます（ちょっと高価ですね）。

1985 年という年はドバイにとって特別な年でした。「エミレーツ航空」が設立された年です。そのころは、アラブ首長国の国際線の代表権はアブダビにありました。そこで、自分の首長国の航空会社を作ろうではないかということから生まれたのが、「エミレーツ航空」なのです。当初は小さな航空会社でしたので、運用も大変だったようですが、早くも 1990 年代半ばから大きな国際航空会社へと躍進しました。2015 年には、ドバイ国際空港の旅客数は世界第 1 位になったということです。数十年で急発展してきたドバイで圧倒されながら、元気になりませんか？



ここ 4～5 年、百済の文化に興味を持って、家族に付き添ってもらい日韓のお寺を参拝しています。百済の歴史を旅する入門コースを紹介します。

#### 近肖古王をみる

韓国の王朝もののドラマ（DVD）の中で、百済の文化を知るなら『百済の王 クンチョゴワン』（2011 年、60 話）がおすすめです。4 世紀、第 13 代の王として高句麗王を破って百済の全盛を築いた近肖古王（クンチョゴワン）が描かれています。ドラマでは百済文化の象徴である

百済金銅大香炉や七支刀が画面に何度も出てくるので、百済の中心都市の扶余（プヨ）に行きたくになります。また百済から伝来した仏教文化を代表する日本のお寺といえば、弥勒菩薩半跏像のある京都の広隆寺、聖徳太子の建立と言われる東近江の百済寺（ひゃくさいじ）や奈良の法隆寺ですので、百済文化の旅はこの3つのお寺の参拝から始めました。愛知大学名古屋校舎の近くには韓国観光公社のコリアプラザ名古屋（名古屋市錦二丁目）がありますので、ソウルや扶余の旅行プランを丁寧に紹介してくれます（すべて無料）。旅行コースが決まったら、旅行社または自分で飛行機のフライトとホテルを決めます。フライトを個人で予約する時は、前日の夜までに大韓航空やアジアナ航空に電話やパソコンで予約すれば（VISA や JCB などのカードが必要）、翌日に中部国際空港のカウンターで予約番号を言ってパスポートだけで搭乗することができます。なお屋外の建物を見るには天気の良い日に限りますので、台風の期間を避け

てのフライトが必要です。

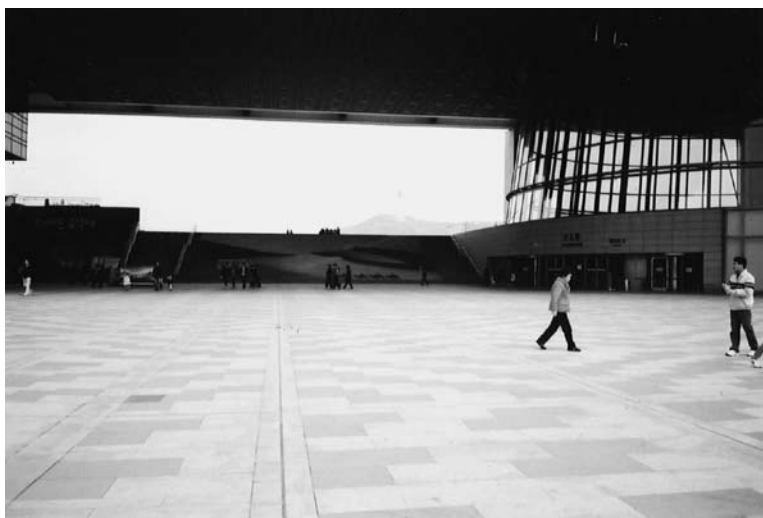
#### 半跏思惟像をみる

愛知大学の姉妹校である中央大学校はソウルの漢江（ハンガン）沿いにあります。漢江を挟んで中央大の向かい側の龍山（ヨンサン）には韓国一の規模を誇る国立中央博物館があり、ソウル旅行一番のおススメスポットです（入場料は無料）。また中央博物館の正面玄関の北側には、南山タワーがそびえ、景色が美しく感動します。中央博物館の東側は時代ごとに文化物が展示しており、韓国語の他に日本語・英語・中国語のパンフも置いてあります。韓国の小中学校の生徒たちが団体で見学に来て、とてもにぎやかです。メインは3階の「半跏思惟像」です。暗闇の中に像がライトアップされ、京都の広隆寺と瓜二つの像を30センチの近くで見ることができます。1階の百済室には、百済金銅大香炉があります。でもよく見るとレプリカです。本物は扶余の国立博物館にあるのです。



ソウルの国立中央博物館（筆者撮影）

中央大学の東側には高速ターミナル駅（地下鉄3号、7号、9号）があり、扶余方面へ行く直通バスが出ています。リッチに旅行したい時は、宿泊ホテルを高速ターミナル（新世界デパートのビル）に隣接するJW マリオットホテルにすると便利です（予約なしの時はカードとメールアドレスが必要）。新世界デパートの地下1階の食



ソウルの国立中央博物館入口広場（筆者撮影）

品売り場は惣菜・洋菓子がオススメです。高速ターミナルの駅には朝から営業している韓式の食堂が多いので、石焼ビビンバ、チジミ、ソルロンタン（牛骨スープ）などを食べてからバスに乗りましょう。定食で5000ウォン～7000ウォン（約500円～700円）です。忠清南道の公州や扶余行きのバスは頻繁に出ているので予約は必要ありません。

#### 百済金銅大香炉をみる

韓国の歴史都市では新羅の都である慶州（キョンジュ）の人気の高いのですが、扶余が世界遺産に登録されてからこちらも人気スポットとなっています。ソウルから扶余には高速バスで約2時間半です。扶余では市外バスターミナル駅に到着しますので、そこからタクシーで移動します。まず世界遺産の石楼のある定林寺を参拝します。次は白馬江を渡って、百済歴史文化館や百済文化団地を見学します。白馬江は百済が新羅に滅ぼされた時に3000人の官女が身を投げたという「落花岩」があります。百済

文化団地では見覚えのある仏教建築物が並んでいます。奈良の法隆寺とそっくりの五重塔などの建物の配置です。日韓で比較すると世界最古の木造建築物である法隆寺に軍配が上がります。扶余観光の最大のメインは国立扶余博物館の百済金銅大香炉です（入場料は無料）。金ぴかの百済金銅大香炉にただただ感動します。

国立扶余博物館では最後に、百済王の近肖古王（クンチョゴワン）の象徴であった7つの剣先をもつ「七支刀」（しちしとう）を見る予定でしたが、本家本元にはレプリカしかありません。韓国の博物館では、本物の百済の七支刀は日本の奈良県天理市の石上神宮（いそのかみじんぐう）にあることが記載されていました。扶余旅行の後日、天理市の石上神宮に参拝しました（入場料は無料）。神宮の境内では地鶏のニワトリが何匹も歩いていて、とてもどかです。神宮の方にお尋ねすると、国宝の七支刀は一般公開をしていないとのこと。今回の百済の旅は、石上神宮にある七支刀の一般公開の日を待ってから終わることになります。